



☀️ なし

テントシート	原材料の高騰を販売価格への転嫁が出来つつあると思われるなか、本年2月1日より製品の値上げがあった。また中東情勢により原油・ナフサ価格の上昇および石油化学製品の供給環境の悪化の影響で、全製品の大幅な価格改定(6月1日より)があると思われる。販売価格への転換に厳しい状況が続くと思われる。
木製品素材生産	5月期の原木出材量は、先月と変わりなく入荷している状況。丸太価格については、依然として一部樹種(ヒノキ)で値下がりが続いている状況ではあるが、全体的にはほぼ横ばいで推移。6月に入り、高知県では梅雨入りもしたことから原木出材量は、多少減少してくるのではないかとと思われる。また、丸太価格については、製品の動きが相変わらず鈍いため、大きな変動は見込めない状況。
製紙(家庭紙)	紙製品全体として、販売金額は前年同月比で上回り、生産量は前年並みとなった。販売量は前月に続き下回った。また、品目別では、雑種紙が販売金額、販売量及び生産量ともに前年同月比で上回ったのに対し、衛生用紙は販売金額が前年同月比で上回ったが、販売量及び生産量ともに下回った。なお、中東情勢の緊迫化による重油価格高騰が、会員企業の経営に深刻な影響を及ぼしている。燃料重油の年間購入額は令和7年度と比較して大幅に増え、多くの企業が「かなりの影響あり」または「深刻な影響あり」の状況である。さらに、ナフサ関連包装材料についても仕入価格の上昇や供給不安が生じており、在庫不足を訴える企業も多い。
製紙(手すき和紙)	今月は決算期の企業もあり、動きが少なかった。緊張が高まる中東情勢やまだまだ収まらない物価高騰など、このまま長引けば、先行きは見通せない状況になる。
コンクリート製品	対前年比144.8%。新たに3組合員の加入により、前年度より出荷が多くなっている。前年度と比較すると公共事業費は横ばいであることから、組合員の増加によると分析している。また、中東情勢が不透明であり今後の資材調達に関して、業界への影響が懸念される。
刃物製造	受注残の品の手入れにより、売上は前年をクリアできた。問合せ等は落ち着いている。
機械団地	中東情勢の悪化に伴う資材高騰や供給制限は継続している。そうした影響もあるのか、団地内の業況は横ばいの状況が続いている。
船舶製造	作動油類やその他副資材等の調達は現状落ち着いている。
珊瑚装飾品製造	5月度の取引額は、前年同月比で211%と前年を上回る結果となった。
青果卸売	5月の取扱高は組合員全体で前年対比104.9%となった。4月に比べ、5月の取扱高は久しぶりに100%を上回ったが各社にばらつきもあり、まだ好調とは言い切れない。今年の1月から5月までの累計は96.6%となった。
生鮮魚介卸売	5月の取引高は前年比約93%となった。鮮魚の入荷量も減少している。スチロール箱などの資材が値上がりしている。カツオは順調に入荷している、美味しくなっている。
各種小売(四万十町)	5月の町内の景気動向は、物価高支援で四万十町が配布した家計応援商品券の利用が始まったことで上昇傾向にある。ただ、商品券による好況は一時的なものであり、その場を凌いだ後が怖い、と予断を許していない事業者の方が大半である。
電気機械器具小売	5月は全商品平均で前年並である。スタンダードタイプエアコン前年比で128%。4K8Kテレビ89.5%、ドラム式洗濯乾燥機97%、リフォーム全額で102%であった。

中古自動車小売	市場相場は安定しているが、流通量の減少で注文車両等の仕入れが困難な場合がある。消費者動向は徐々に上向きになっており、幅広い年式並びに価格帯の注文や問い合わせが増加傾向にある。
商店街(高知市)	5月の駐車場利用台数は、前年同月比102.6%となり、前年同月より755台増加した。あわせて、料金収入についても前年同月比100.5%となり、前年同月より52千円の増収となった。また、人流カメラによる集計では、5月の来街者数は前年同月比0.4%増となった。特に、5月3日から5日に開催された「こち春花まつり2026」期間中は、全地点で人出が大きく増加した。なかでも5月4日は月内最大の来街者数を記録し、商店街各所への回遊にも大きく波及した。さらに、5月はクルーズ船の寄港が5隻あり、昼間時間帯における中心市街地への回遊を後押ししたものと考えられる。
旅館・ホテル	宿泊は昨年と同等に集客できた。ゴールデンウィークは日並びが悪く、収益が伸びなかった。6月は例年オフシーズンにあたるため、今年も集客に苦戦しそうな見込み。
旅行業	組合クーポン前年同月対比29%、全旅クーポン合算後54%。前年と比較し、売り上げは大きく落ち込んだ。修学旅行関連の実施時期の変更が影響している見通しである。
IT事業	今月の売上は前年とほとんど変わらない結果となった。年度末需要が落ち着きを見せ、3~4月と比べると、例年売上高が下がる傾向にある。6月以降は大型案件を受注できるよう提案活動の強化に邁進していきたい。
一般土木建築工事	資材高騰により収益率が下降してきている。
電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比97.7%となった。各地区で増減があったものの、全体としては、同年同様となった。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入:102.8%、回数101.9%、実働率:50.5%。令和8年3月初めに運賃改正のための要請書が提出され、5月末には、全事業者(車両の50%)の50%が改正を希望したため、今後運輸局が次の段階に入り順調に進めば年内に認可になると思われる。利用される方には物価上昇の折、またかと思われるだろうが、労働者の条件の改善を含めご理解いただきたいと思う。ご存知の通り、運転者不足で600台の車の半数しか稼働していない。

食品団地	取引条件の悪化など、景況は全体的に下降傾向にある。ナフサ不足がより深刻化する中、資材等の調達に苦慮しており、包材の入荷が滞り一部の商品の生産を停止する事業者も出てきている。エネルギーや仕入れ価格の高騰により、販売価格への転嫁など経営戦略を見直す事業者も見られる。
酒類製造	米価は高値圏ながらも一部で軟化の動きが見られ、製造コスト面では改善への期待が高まっている。しかしながら、主食用米との競合等により酒米の生産基盤は厳しさを増しており、原料米の安定調達は引き続き課題となっている。販売面では、物価上昇や価格改定の影響から消費動向に慎重さが見られ、低価格帯のみならず中高価格帯の商品にも販売減少の傾向が広がっている。一方で、輸出は引き続き好調を維持している。
製材	資材の供給不足が更に景況感を悪化させるとの声が多い。
建具	ナフサ不足の影響だと思いが、アクリル・樹脂板が品薄になっており、値段も2~3割上がって非常に心配である。なぜか建具金物も値上げが続いている。早く値上げが終わってほしい。
印刷	売上大幅減、操業度大幅低下。共に酷い状況。県内は官公需、民需とも低迷。県外需要も一部の業種が低迷、他業種で一部好調な部分も見られたが全般に非常に厳しい状況となった。ただ今後の動きとしてよさこい高知文化祭2026の特需の話も出ておりこれに期待したい。
生コンクリート製造	5月度の組合員工場の出荷量は対前年比75.8%であった。また、4月からの累計も75.1%で減少傾向が続いている。地域的には、東部、嶺北、高幡地区の減少が顕著である。
卸団地	段階的な値上げ実施に伴い、売上額は上昇傾向にあるが、同様に総経費も大幅上昇しており、さらなる価格転嫁は必須。今後は、付加価値やサービス等、価格に見合う価値が問われる。景気回復は感じられない。仕入商品の値上がりが続くものの、販売価格に十分転嫁できない。
ガソリンスタンド	暫定税率廃止後のガソリン税は28.7円/Lとなっている。そして5月27日現在の国からの補助金は37.2円/Lとなっているが、政府は現行の指標であるブレンド原油からドライ原油に切り替えを行うとされており、そうなれば原油価格が高騰することが考えられる。しかし、今のところ市況は170円を超せばその分補助がでるので市況には大きな影響はないと思われる。ただし政府の予算がいつまでもつかかわからない。もしかすれば平均小売価格の170円が上がることになるかもしれない。
商店街(安芸市)	中東情勢の影響もあってか、物価高が続く消費者の購買意欲の低下を感じる。
商店街(四万十市)	前年と比べほぼ同水準だった。少し減少傾向にあるように感じる。ホルムズ海峡の閉鎖によって資材の高騰、不足が現れだしている。
飲食店	売上高は前年同月程度ながら、販売価格の上昇分と売上個数の低下分で釣り合っており、集客は前年同月を下回る。加えて物価高に業界の価格転嫁は追い付いておらず、収益は相当悪化している。前年度同月に比べ更に物価は高騰。光熱費、仕入れ価格、人件費、すべての経費が上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
クリーニング	5月は最繁忙期であるが、消費者の節約志向は続いており、点数減になっている。エネルギー高、資材高が続いており、特に資材の価格アップ率が大きい。価格改定を行った店舗も一定数あるが、利益圧迫している。包装材料は出荷制限が続いており、手元の在庫が切れる秋以降の供給を心配する声が届いている。
一般貨物自動車運送	中東情勢は解決の目途がつかない状態で、石油製品への影響は大きくなっており、石油関連商品の輸送量も減少しつつある。燃料価格も補助金の目録により3円前後の値上げとなり組合員企業の経営を圧迫している。